

高津区おはなしアーカイブ

●宮田良辰（みやた よしとき）さん
大正 15 年生まれ 87 歳
川崎市高津区新作在住



◆子供の頃の思い出

このあたりは宮田という家が何軒かあって我が家はその総本家でね。お墓は近くの養福寺にあります。もともとは影向寺の檀家です。小学生の時にご先祖さまが寄進したという釣鐘を見に影向寺まで一人で歩いていったことがあるのですが「新作村名主 宮田兵庫助由且」という名前が彫ってあるのを見ましたね。戦時中の金属供出で残念ながら今はありませんが、とても印象に残っています。

あの頃はガキ大将でね。男の子は専ら兵隊さんごっこして遊んだね。木を切って、刀にしてね。手で持つ柄のところだけ皮を残して。女の子はあんまり外で遊ばなかったなあ。外で遊んでいるのは男の子でしたね。

橘小学校には新作のほか末長や久末の方からも児童が通って来ていてね。久末の皆さんは毎日、通学で足腰が鍛えられているから、運動会ではどうにもかなわなかったなあ。徒競走とか、早かったね。

私は音楽が好きで、歌うのも大好きだった。昭和 8 年に皇太子殿下（今上天皇）がご誕生された時は日本中が大喜びでね。「皇太子さま、お生まれなった」という歌ができて、私も元気に歌いましたね。楽しい思い出です。

音楽といえば学芸会の楽器演奏の練習をしようと思って新作八幡宮の近くの五軒室という穴に入った時に、小さい穴を掘り進めたら、そこは横穴になっていて、玉砂利が敷き詰められた上に人骨があつてね。一緒に埋葬されていた刀は、触ったら金属がぼろぼろに砕けてしまった。あのあたりに残っていた古墳群の一つでしたね。

新作は昭和 12 年に川崎市に合併しました。それまで橘村の村会議員だった末長の川野さん、新作の宮田、千年の吉田さん、久末の森さんたちが集まって合併後の上水道のことなど話し合っていたようです。やはり水は大事ですからね。

◆当時の町の風景

新作八幡宮は高い丘の上にあつて「高八幡」と呼ばれていました。そのご神木に上ると遠く六郷橋までわかりましたね。今の

ように武蔵小杉の大きなマンションもなかったから、よく見えました。

あの頃は新城駅まで家は一軒もなかったし見渡す限り「田んぼ」だった。そのおかげで「田んぼ」が貯水槽になって水を蓄えてくれたから、大雨が降っても道に水が溢れずに済んだということだよ。

後で新城駅の方に日本光学の社宅ができて新作第二町会になっても「田んぼ」の方がずっと広い面積でした。

今の「市民プラザ通り」はもともと「池の谷戸」につながる行き止まりの道で。

「池の谷戸」には「おかま」と呼ばれる場所があって砂を吹きあげながら水が湧き出していてね。「市民プラザ通り」にも関係する話だけれど、我が家には柿の木が5本あってね。私は5人兄弟で、父が子供の成長を祈って一本一本植えてくれたそうです。兄弟仲良く「これは僕の柿の木、あれはお前の柿の木だ」なんて話したりしてね。でも家の前に道路ができることになって、5本とも伐採してしまいました。うちだけでなく何軒か個人の地主さんが土地を提供して今の「市民プラザ通り」が完成したので。

その頃、私は川崎市の職員で、橘のごみ焼却場の場長として火入れ式をしたのが昭和36年12月15日。しばらくして今の「市民プラザ通り」が開通して国道246号線までつながったわけです。それまでは木が生い茂り、車もほとんど通らない場所

でしたから、ずいぶん開けたということですね。



＜昔の地図や写真で町の姿を確認＞

◆戦中戦後の記憶

橘小学校を卒業して川崎工業学校の電気科に進学しました。技術を身につけたかったからです。同級生で予科練に行く人もいましたが、私が行きたいと言っても親父に反対されました。学生時代は勤労働員で富士電機に行きました。川崎工業学校を卒業し19歳で徴兵検査を受け「甲種合格」しました。教育とは凄いもので、あの時は「やった、戦争に行くぞ！」って思いましたね。お国のために働ける、って思ったら本当に嬉しかった。友達や同級生はその時には既に志願して戦争に行っていましたから。

そして栃木県にあった中島飛行機宇都宮製作所に配属になったのです。当時は陸軍の軍用機を作っていました。電気科出身ということで技術を生かした仕事に就き、後には重役室に配属になりました。しばらくして終戦になり、私はそこで天皇陛下の玉音放送を聞いたのです。

終戦後、宇都宮の航空隊からトラックに乗って雨の中を走り続け、何とか新作の我が家にたどり着きました。「何ていう気持ちかなあ。とにかく、うちまで帰らなくては」と思って必死でしたね。

復員してからは親父がやっていた材木や農業、運送の仕事を一生懸命に手伝いました。馬が好きで、どこに行くにも馬に乗っていたからそのうち評判になりました。あの頃、我が家では牛や馬、鶏、豚を飼っていましたが、特に馬は力があるので農作業に使ったり、荷物を引かせたりして重宝しました。

そうこうしているうちに、昭和25年、私は川崎市の職員として奉職することになったのです。

◆市職員から市議会議員へ

市の職員になってからは主に清掃畑を歩きました。忘れられないのは昭和40年代の所謂「ゴミ戦争」と呼ばれる時代です。戦後の高度経済成長の中、企業や人口が増え続けた川崎市は、その分「ゴミ」も増えていきましたから、焼却場の職員が徹夜で対応してもさばき切れないほどのゴミが毎日運び込まれて来るのです。あの時は参りましたね。しかも徹夜で仕事をしようにも、このあたりは食堂ありません。幸い橘の焼却場はこの家からも近いので、我が家の大鍋で妻がカレーを10人分作って、職員に夕食として振舞いました。仕事で家に帰

れない人は我が家に泊まっていました。毎日が夢中でしたね。

昭和49年に王禅寺のごみ焼却場の場長を最後に退職しました。翌年の選挙には落選しましたが、その4年後の昭和54年に川崎市議会議員に初当選しました。以来、5期つとめ、平成5年から6年にかけては市議会議長も経験することができました。

町会長も長く続けさせてもらいましたが奉賛会の協力もあって、お宮さん（新作八幡宮）の土地に町の集会場を作ることもできました。ありがたかったね。

子供の数が増えて新作小学校を作る時も大変だったね。新作小が開校したのは昭和60年です。あのあたりは埋蔵文化財がある場所だからそれを避けるためにまず発掘調査をしないと、ということで一年かかり、計画では市内の小学校の敷地としては最大になってしまいそうだったので、そのアセスメント（環境影響評価）にまた一年かかってね。末長小からも「隣の教室の音がベニヤで仕切っても聞こえてくるから、早く新作小を作ってほしい」って要望もあったしね。今は少子化の時代になりましたが、あの頃は子供が増える一方でしたからね。

◆スポーツで地域貢献

スポーツとの出会いは野球と相撲だったね。野球は戦時色が濃くなると英語が使えないから、ルールやポジションもみんな日本語にして試合をしたのを覚えているね。

相撲は子供の頃から大好きでね。おじさんがすごく強かったから、いろいろ教えてもらってね。工業学校の時も相撲部で活躍したのですよ。あの頃、うちの庭に親父が土俵を作ってくれて「すもう大会」を開いたわけです。それが評判を呼んで遠くからの参加者もあって、結局その大会は終戦まで続いたね。

私だけでなく子供たちもスポーツが好きで、学生時代から長男はゴルフ、次男は剣道に打ち込みました。今ある宮田剣道場は昭和46年に完成したのです。ちょうど高津警察署の今の建物ができたのと同じ年だね。警察からも「剣道場でぜひ稽古したい」という申し出があって、「どうぞお越し下さい」と話したら、警察官が護送車に乗って大勢来たものだから、あの時はびっくりしたね。

今は次男だけでなく、そのお嫁さんや孫たち、孫のお嫁さんたちもみんな剣道の有段者で子供たちの指導をしています。幼稚園の子供もお稽古に来ます。お人形みたいにかわいい子たちが剣道の防具を身につけるとしゃきつとしてね。いいものだなあと思いますよ。

今、議員は引退しましたが、町のことや防犯のことは引き続き気にかけていきたいと思っています。皆で助け合って安心安全な町を守り続けたいからね。

(平成26年8月27日実施)